

令和8年8月6日

報道関係者 各位

市川市 文化国際部長 日暮 真司

第2回永井荷風文学賞・新人賞受賞作について

令和8年7月3日付「永井荷風文学賞候補作について」の中でもお知らせいたしましたとおり、「永井荷風文学賞」につきまして、第2回受賞作が下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

1 第2回 永井荷風 文学賞

【著者名】イ・ラン／著、斎藤真理子・浜辺ふう／訳

【作品名】『声を出して、呼びかけて、話せばいいの』 2025年（河出書房新社）

【プロフィール】

イ・ラン氏：1986年韓国ソウル生まれ。ミュージシャン、作家、イラストレーター、映像作家。

斎藤真理子氏：翻訳家。2015年パク・ミンギョ『カステラ』（共訳）で日本翻訳大賞、2020年チョ・ナムジュ他『ヒョンナムオッパへ』で韓国文学翻訳院翻訳大賞、2025年ハン・ガン『別れを告げない』で読売文学賞（研究・翻訳部門）受賞。

浜辺ふう氏：劇作家・俳優。＜九条劇＞主宰。

2 第2回 永井荷風 新人賞

(1) 新人賞

【著者名】真山 汰一（まやま たいち）2000年生まれ

【作品名】『立つ岸边』（小説）

【プロフィール】 東京大学文学部人文学科卒業。

(2) 佳作

①【著者名】荒木 明（あらき あきら）2009年生まれ

【作品名】『オートポイエーシスの暮れに』（小説）

【プロフィール】 現在高校生。

②【著者名】渡部 周子（わたなべ しゅうこ）

【作品名】『「非現実的世界」宝塚—「少年」のロマンティシズム—』（評論）

なお、授賞式及び記者会見を11月2日（月）に予定しております。

詳細はあらためてお知らせいたします。

【問い合わせ】

文化国際部 文学課長 堀 優子

電話 047-320-3334

令和 8 年 8 月 6 日
永井荷風文学賞実行委員会
(市川市・三田文学会)

永井荷風文学賞 受賞作発表

1. 設立趣旨

永井荷風は、明治、大正、昭和にわたって活躍した日本近代を代表する作家であり、小説はもとより、随筆、評論、演劇、詩、翻訳などその偉業は多岐にわたっています。

特に明治末年に慶應義塾大学において『三田文学』を創刊し、初代編集長となって以降百数十年にわたる日本文芸の隆盛の礎を築いた功績は極めて大きいものです。

戦後、その晩年を市川市で過ごし、その風景を描いた作品を多く残すなど、深い縁で結ばれ、名誉市民の称号も贈られた荷風の業績を顕彰するため、三田文学会とともに 市川市制施行 90 周年記念事業として、令和 6 年 11 月に「永井荷風文学賞」を創設いたしました。

2. 賞の概要

	永井荷風文学賞	永井荷風新人賞
内容	荷風の幅広い功績にならい、小説、随筆、評論、演劇、詩、翻訳など、幅広い分野において、対象期間中に刊行された中で、荷風賞に最も相応しい文学作品を讃える賞。	新進気鋭の書き手の発掘と支援に情熱を傾けた荷風の精神にならい、「三田文学新人賞」を引き継ぐ形で、公募型の「永井荷風新人賞」とする。
分野	小説・随筆・評論・演劇・詩・翻訳	小説・評論（未発表作品で 400 字詰め原稿用紙 100 枚以内）
対象期間	毎年 6 月 1 日～翌年 5 月 31 日	毎年 6 月 1 日～翌年 5 月 31 日 （第 1 回に限り令和 5 年 11 月 1 日～令和 7 年 5 月 31 日）
賞金	100 万円	新人賞：50 万円 佳作：10 万円

各々受賞者複数の場合は
賞金は等分する

3. 選考委員 氏名 （※敬称略・50 音順）

永井荷風文学賞	永井荷風新人賞
安藤 礼二（あんどう れいじ）・評論家	いしい しんじ・小説家
岡田 利規（おかだ としき）・劇作家	青来 有一（せいらい ゆういち）・小説家
金原 ひとみ（かねはら ひとみ）・小説家	田中 和生（たなか かずお）・文芸評論家
蜂飼 耳（はちかい みみ）・詩人	持田 叙子（もちだ のぶこ）・近代日本文学研究
松浦 寿輝（まつうら ひさき）・小説家	

4. 最終候補作

永井荷風文学賞 (※敬称略・刊行順)

著者	タイトル	出版社	刊行日
沢木 耕太郎	暦のしずく	朝日新聞 出版	2025 年 6 月 30 日
著：イ・ラン 訳：斎藤 真理子 訳：浜辺 ふう	声を出して、呼びかけて、話せばいいの	河出書房 新社	2025 年 9 月 30 日
東 浩紀	平和と愚かさ	ゲンロン	2025 年 12 月 15 日
カゲヤマ气象台	「いまのところまだ存在しているわたしの たましいが……」	私家版	－
井戸川 射子	中座を横から見た scene	思潮社	2026 年 3 月 15 日

永井荷風新人賞 (※敬称略・受理順)

小説／評論	著者	タイトル
小説	真山 汰一	立つ岸边
	広島 哲也	名前のない子どもたち
	箔塔 落	ファム・ファタールの明滅
	中武 幸貴	たいかんのわ
	荒木 明	オートボイエーシスの暮れに
評論	渡部 周子	「非現実的世界」宝塚―「少年」のロマンティズム―

応募総数：797 作（内訳：小説 728 作、評論 69 作）